



第1回 全日本 学生フォーミュラ大会 大会スタッフに参加して 上原 勇（日本大学理工学部）

2003年9月10日,11日,12日に富士スピードウェイで行われた「第1回全日本 学生フォーミュラ大会」に大会スタッフとして参加しました。

私は,高校3年生の夏に日本大学理工学部のオープンキャンパスで円陣会の平沼先輩から今回の大会の話聞き,中学生の頃から大学へ進んで自動車工学を学ぼうと思っていたので,自分がずっと探していた道を見つけたいと思い,迷わず今の大学に入学し円陣会に所属しました。

そして大会の話が具体的になり,大会スタッフ募集のことを先輩から聞き,記念すべき第1回大会をスタッフの一員として参加できるということは,チームとして参加するのはまた違う経験や勉強ができると思いました。自分が将来プロジェクトに参加する時の糧と

なるのではないかと,やらせていただくことを決めました。

私は今回の大会で,燃料給油担当員の日本大学理工学部の吉田先生と関根先生,同大会スタッフの静岡大学の林さんと一緒に燃料給油係を担当させていただきました。

給油係の仕事は,大会期間中の燃料(ハイオクガソリン)の管理,各大学の無事車検を通過した車両への燃料タンクの機能確認,満タン給油量の確認,プラクティスや動的審査前後の車両への満タン給油,エンデュランス(耐久走行)を完走した車両への満タン法による燃費測定というものでした。特に最後の燃費測定は,燃費の最も優れていた学校から順に点数が与えられ,上位3校は表彰されるということなのでとても緊迫した空気の中での作

業でした。また当日風が強かったので燃料を提供していただいたスポンサーの幟が見えやすくすることもはずせない仕事のひとつでした。

燃料を給油する際は給油前に気温を測り,20メスシリンダー,50 と見やすい燃料レベルラインccメスシリンダー,ピペットを使用し,とても精密な測定を行いました。できる限りこぼれないようロートを使用したり,学校によっては給油しづらいところに給油口があり,その場でひと周り小さいロートにホースをつなげ狭い場所でも給油ができるようにスペシャルツールを作ったりしました。

給油所では,可燃性の強いガソリンを扱うため消火器が6本と耐火服(レーシングスーツ)を着用しての作業と,安全対策を万全にして行いました。

しかし,最高気温が30度以上にもなる真夏の炎天下の中(テントはあるのですが)の耐火服着用はとても蒸し暑くつらいもので,まるでサウナのようでした。

給油係の仕事は,燃料を直接取り扱うのは学生では危険なので先生方が行い,私達学生の仕事は大会に出場している車両の誘導(各大学によってそれぞれに个性的で設計の違いにより給油口が右側についている車両と左側についている車両がいて,安全対策上入口ひとつしかないテントへ入る時に直進または後進のどちらで



写真1：給油所の作業風景



写真4：給油作業中

入るのかを判断しました)と、給油をする際、大会スタッフの一人はその時の気温を備え付けた温度計で測り、20メスシリンダー、50ccメスシリンダーを使用して何杯入れたのかをメモをして最後に総給油量の算出をしました。もう一人は給油口に差し込んだロートの固定と燃料レベルラインに燃料が達したかどうかの監視、車両の出し入れの手伝いと車輪止めの確認をしました。もちろん発火した場合に備えて消火器をそばにおいての作業でした。

いかに給油作業を円滑に進行できるか、自分にできることは何かを常に考えながら仕事に取り組みました。

私は大会の1日目、2日目を主に静的審査(車検やチルトなど)が行われているグラウンドスタンド前の給油所で車両が来るのを待ち、3日目の大会最

終日は、動的審査(耐久走行や、運動性能の審査など)が行われているP7駐車場で作業していました。耐久走行を終えたばかりの車両は、エンジンはもちろんのこと、マフラーやラジエターなどが非常に熱くなっているので、触らないように注意をしながらの作業はとても大変でした。P7での作業は各大学の耐久走行を見ることができました。有力大学がリタイアしてしまうなど走行は1台ずつではありましたが、白熱した走りが繰り広げられていました。

給油作業をしていると、各大学の車両を間近でじっくり見ることができ、まさに「十大学十色(十人十色)」といったように吸排気系、足回り、カウルなど、どれをとっても個性があり、彼らが今回の大会までに血のにじむような努力をし、今もてる知識や技術を注ぎ込んでき

たことが感じられるマシンばかりでした。私はまだまだ知識や技術の足りない身ながら、このまたとない機会に貴重な勉強をさせていただきました。

一日の仕事を終え、ホテルに戻り夕食を食べながら、他の大学の大会スタッフの方々と今回の大会の出場マシンの特徴や運動性能など、自分たちが見たり聞いたことを情報交換のように話したり、来年の大会への参加に対する意気込みや熱意を楽しく語り、またそれ以外にも自分たちの趣味の話を夜遅くまでしました。同じような志を持った方ばかりで、とても有意義な時間を過ごすことができました。

大会期間中、色々なところで企業の方々や大学の先生方の貴重なお話を聞くことができました。

大会スタッフという貴重な経験を通して、私は一人の人間として、そしてエンジニアの卵として、この短い期間で一回りも二回りも成長したように思います。それと同時に、プロとしての自動車づくりに更なる深い関心を抱きました。大会スタッフとして、違う視点から第1回全日本 学生フォーミュラ大会を見ることができ、本当によい勉強になりました。



写真2：給油しやすかった給油口

* 写真はすべて日本大学理工学部の大陣会から提供させていただきました